

第583号



喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664



発行日 2017年10月16日  
 発行責任者 喬木村公民館 長 徹  
 編集責任者 市 瀬 公民館 編集部 長 志  
 印刷 龍共印刷株式会社

### 公民館楽遊塾第4講座

## 陶芸教室

九月二十四日(日)公民館楽遊塾第四講座。今回は「陶芸教室」として富田陶芸館にて行いました。講師には富田焼きを伝承されている木下俊佐さん(会長) 富田陶芸クラブの方々が。富田には江戸時代から明治時代まで鬼瓦を製造する瓦屋さんが十数軒あったという事です。平成四年に陶芸館が建設され「富田焼」を後世まで残したいという思いで、陶芸クラブが発足し、今日まで陶芸製作に励んでおられます。

今回は四歳の子どもさんをはじめ、子ども連れのお母さん方が参加して下さい、総勢二十七名。いつもは広い教室も今日は狭く感じる程でした。



富田陶芸館にて教室参加の皆さん

はじめに作業工程の説明を頂き、粘土をこねはじめます。固く冷たい粘土も練る度に柔らかくなり成型。今日まで何を作ろうかと考えていた人。先生方の説明を聞き、作る物を決めた人。半日という短い時間作り上げなくてはならないため、どの顔も真剣そのもの。伸ばし方、底の付け方など難しい所では陶芸クラブ員の方のアドバイスや、手をお借りして思い思いの作品を作り上げること

### 学社連携ICT授業

## 「タブレット写真教室」開かれる

九月二十八日(木)、第一小六年二組、第二小六年の児童で、ICT活用授業の一環として、たかぎカメラクラブの皆さんを講師に、両校に整備されているICT機器のタブレットを使用し、写真教室が行われました。

この事業の主催は喬木村社会教育委員会です。社会教育委員会は子どもからお年よりまでが日々の生活の中で、興味を持ち自分から

九月二十八日(木)、第一小六年二組、第二小六年の児童で、ICT活用授業の一環として、たかぎカメラクラブの皆さんを講師に、両校に整備されているICT機器のタブレットを使用し、写真教室が行われました。



撮った写真からベストショットを選ぶ2小児童

## 椋鳩十ものがたり 48

### 『椋鳩十全集』掲載作品

椋鳩十顕彰会 久保田 毅

#### 椋鳩十全集四

#### 「大空に生きる」その四

#### 昭和四十四年十一月

元気をとりもどした二羽のワシは、自分たちだけの領土を求めて、峰々をこえ、深い谷々をこえ飛びたつていきま

す。はるか下の谷間に、黒く点々とちらばっているふしぎなものを見つめます。「その黒く見えるものの中

はじめてに作業工程の説明を頂き、粘土をこねはじめます。固く冷たい粘土も練る度に柔らかくなり成型。今日まで何を作ろうかと考えていた人。先生方の説明を聞き、作る物を決めた人。半日という短い時間作り上げなくてはならないため、どの顔も真剣そのもの。伸ばし方、底の付け方など難しい所では陶芸クラブ員の方のアドバイスや、手をお借りして思い思いの作品を作り上げること

九月二十八日(木)、第一小六年二組、第二小六年の児童で、ICT活用授業の一環として、たかぎカメラクラブの皆さんを講師に、両校に整備されているICT機器のタブレットを使用し、写真教室が行われました。

この事業の主催は喬木村社会教育委員会です。社会教育委員会は子どもからお年よりまでが日々の生活の中で、興味を持ち自分から

九月二十八日(木)、第一小六年二組、第二小六年の児童で、ICT活用授業の一環として、たかぎカメラクラブの皆さんを講師に、両校に整備されているICT機器のタブレットを使用し、写真教室が行われました。

この事業の主催は喬木村社会教育委員会です。社会教育委員会は子どもからお年よりまでが日々の生活の中で、興味を持ち自分から

戦時中、満州移民を積極的に押し進めた河野村の胡桃澤盛村長とはどんな人物であったのだろうか？戦争末期の昭和十九年に分村移民を執行、九十五年の入植を実施した経緯は？胡桃澤村長の周辺には分村移民について異議をとなえる者はいなかったのだろうか？

### あの時

戦時中、満州移民を積極的に押し進めた河野村の胡桃澤盛村長とはどんな人物であったのだろうか？戦争末期の昭和十九年に分村移民を執行、九十五年の入植を実施した経緯は？胡桃澤村長の周辺には分村移民について異議をとなえる者はいなかったのだろうか？

# 平和のバスに参加して

感想文

## 広島平和のバスに参加して

喬木中学校三年 河原光希

私は、広島平和のバスに参加して戦争や原爆の悲惨さを学び、平和について考え直すことができました。

広島に向かうバスの中で、戦争や原爆についてのビデオを見ました。その中でも「はだしのゲン」が強く印象に残っています。そのビデオを見て、戦争中に日本の方が飢えに苦しんでいたというのを改めて学ぶことができました。現在私たちが毎日おなかを満腹にするまで食事を食べる事ができます。そのことを当たり前のことのように思っています。月六日八時十五分、広島に原爆が落とされたことを思い浮かべると、想像

することはできませんが、実際にそんなことが起こったなんて考えられないことだと思います。

また、広島や長崎に原爆が落とされたということは知ってはいませんが、具体的にどのようなことが起きたのかを詳しく知っていませんでした。しかし、今回の平和バスを通して学んだ、原爆は私の思っていた以上に恐ろしいものでした。太陽の温度は約五百度といいますがそれに近い四百度の爆弾が地上に落とされたそうです。その被爆地から二キロメートル圏内にいた人のほとんどが即死だったと聞きました。何の罪もない人々の何万もの命が一瞬にして消えてなくなってしまうなんて、本当に悲惨なことです。また「ドーン」という地響きと爆風がしたその瞬間、顔を上げるとそこ

には男女の区別もつかないほど黒く焼け焦げて散らばった人々が倒れていたそうです。その間を歩き「熱い熱い」と言っている赤い炎の中を水を求めてさまよった人々がたくさんいたそうです。また、原爆の被害はそれだけで留まらず、その後放射線による障害などで苦しむ心にも深い傷を負った人がたくさんいます。このことを聞いて、もう二度と戦争の起こるような世の中を作ってはいけないという思いが強まりました。

戦後から七十二年経つ今、被爆者の平均年齢も七十歳を越えています。ということは戦争を体験された方々も段々と少なくなってきたという事です。戦争の経験が無い人がほとんどのこの日本で、多くの人の命を奪った「戦争」そして「原爆」について多くの人々がその苦しみや悲慘さを知り、次の世代へと伝えていく必要があります。そのためにもまずは私たち

## 広島平和バスに参加して

喬木第一小学校四年 後藤雪月

わたしは、今回広島に行き、戦争のことを学べたので、とても心配でした。一日目の朝の出発の時間もとても早く、起きられる心配でした。

広島は、とても遠くても暑くて大変でした。また広島に着いて、出発の時にあずかった折鶴を「原爆の子の像」に捧げました。つるす場所が高くて届かなくて、お母さんと一しょに捧げました。沢山の鶴が捧げられていて、

することです。今後の世の中でも、多くの人が戦争、また平和について考え、絶対に戦争をすることのない、世の中が続いていくと思います。

おどろきました。それにとてもきれいでした。次に、広島平和記念資料館に行きました。ガラスの溶けた時計や佐々木禎子さんの折った鶴やきこ雲や人影の石や三輪車や八時十五分の原爆の時間で止まった時計など、沢山の戦争の物を見ました。とてもよかったです。

二日目の朝も早く心配でした。でも、早く起きられました。そして平和記念式典に参加しました。子ども代表で平和へのちがいがあ、その子たちは、むずかしい言葉で、すごいと思いました。内閣総理大臣のお話も聞けてよかったです。会場には八十一ヶ国もの外人もいて、びっくりしました。その会場は、とても暑くて暑かったです。七十二年前に、その場所が原爆が落ちてきたなんて信じられないです。そのわけは、原爆の温度は約四百度と聞いたので、想どうもつかないからです。



平和への願いのこもった折鶴を奉納

## 編集後記

学生時代、テスト前になると本を無性に読みたくなつた。今でいうところの「ヤル気スイッチ」が入ると読みたいスイッチも入るのだ。生まれたところは山奥のため本屋もなく、図書館も学校しかなく、そこで借りていた。高校生になってからも学校の図書室で借りるか古本屋での立ち読み。名作や古典文学でもなんでもなし。しかし、紙をめくりながら文字を追うのが楽しかった。秋。今もスイッチが入っている。「読書の秋」を楽しめればと思う。

## たかぎ俳句クラブ 長月句会詠草

ゆつくりと孫育ちゆく鱗雲 市橋 ヨリ  
天の川逢瀬と仰ぐ恋の星  
秋の蚊に忍者のごとく吸われけり 西元 くに  
一椀の茗荷の花の白さかな  
つゆ草の一粒風に生しづく 田中 君子  
秋なすの紫紺好みの常着かな  
三味線の音に誘なわれ盆踊り 村山たか子  
青空にとんぼの羽の流れあり  
屋根をうつ雨秋霖の夜となりぬ 秦 恭子  
畠仕事老のひと日の汗拭ふ

あかまんまの花弁の浮かぶ水溜り 原 美恵  
敬老日米寿を祝ふ家族の輪  
点滴のリズムかすかな秋音色 砂場 文子  
実り田へペダルの弾む通学児  
稲の波朝体操の歩の軽さ 松尾万里子  
稲刈りて日差し眩しき畦の道  
届けたき言葉さがして虫の夜 松葉 孝子  
弦月になくさめられし家路かな  
石一つ除けて峽田の落し水 吉川てるこ  
老いて知る月の光にはぐくむも  
遺影にも添へて鮎掛け賞の額 本山 栄信  
残置灯消え兜虫地に残る

## 分館対抗男女混合 ソフトバレーボール大会

九月十日(日)、中央社会体育館、中学校体育館の二会場、分館対抗男女混合ソフトバレーボール大会が開催されました。今年に参加チームは十分館二十チームで、予選リーグから白熱した試合が繰り広げられました。中央社会体育館では町Aチームが、中学校体育館では北Bチームが見事優勝を飾りました。参加分館の選手・役員の方々が皆大変お疲れさまでした。



中央社会体育館会場 優勝 町A分館



中学校体育館会場 優勝 北B分館

平成29年度 分館対抗男女混合ソフトバレーボール大会 結果表

中央社会体育館会場				中学校体育館会場			
優勝: 町A	準優勝: 南A	3位: パラ(梶牛原)	上平	優勝: 北B	準優勝: 北A	3位: 寺の前B	南C
2	0	0	2	2	1	2	1
決勝戦		3位決定戦		決勝戦		3位決定戦	
町A (Aコート1位)	南A (Bコート1位)	上平 (Aコート2位)	パラ(梶牛原) (Bコート2位)	北B (Cコート1位)	北A (Dコート1位)	寺の前B (Cコート2位)	南C (Dコート2位)

るなんて思えませんでした。わたしは戦争をドラマでしか見たことがないけれど、今回広島に行き、戦争の時の物を直せつて見ることが出来たけれど、戦争はとも怖くて、沢山の人が物が消えて、なくなってしまうので、二度と戦争はしないほしいし、原爆も落とさないほしいです。みんな平和で、幸せに暮らしてほしいです。